

小学校体育

1 小学校体育科の指導と評価について

- (1) **学習評価の改善の基本的な方向性** ※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P 5
- ① 児童生徒の学習改善 ② 教師の指導改善 ③ 必要性・妥当性の面での見直し
- (2) **学習指導要領等の枠組みの見直し** ※中教審答申(平成28年12月21日) P 21
- ① 「何ができるようになるか」 ② 「何を学ぶか」 ③ 「どのように学ぶか」
 - ④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」 ⑤ 「何が身に付いたか」
 - ⑥ 「実施するために何が必要か」

体育科の指導に当たっては、(1)「知識及び技能」が習得されること、(2)「思考力、判断力、表現力等」を育成すること、(3)「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが偏りなく実現されるよう、単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要である。 ※小学校学習指導要領解説体育編 P 161

- (3) **運動領域における「知識」の指導と評価** ※文部科学省HP平成29年改訂の小・中学校学習指導要領に関するQ&A
- ① 「運動の行い方を知る(理解する)」
 - ② 動きや技能を習得したり高めたりするために必要となる知識
 - ③ 「わかる」と「できる」の指導の充実を図る
- (4) **運動領域における「思考・判断・表現」**
課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えること 例)言葉やICT機器等
- (5) **運動領域における「主体的に学習に取り組む態度」**
- ① 評価のイメージとしては、粘り強く学習に取り組む態度、自ら学習を調整しようとする態度という視点で評価する。従前の関心・意欲・態度の解釈のはき違いにより、挙手の回数や学習カードの提出率など、学習内容と関係のない事柄を評価することのないように。
 - ② 体育科の運動領域については「学びに向かう力、人間性等」の内容が示されており、この内容を評価することが求められる。
例)第1学年及び第2学年の「器械・器具を使つての運動遊び」
運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。 ※小学校学習指導要領解説体育編 P 49

従前より「態度」を指導内容として示していることから、「学びに向かう力、人間性等」に対応した内容を示すこととした。 ※小学校学習指導要領解説体育編 P 10

各教科等によって、評価の対象に特性があることに留意する必要がある。例えば体育・保健体育科の運動に関する領域においては、公正や協力などを育成する「態度」として学習指導要領に位置付けており、各教科等の目標や内容に対応した学習評価が行われることとされている。

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 P 11

- (6) **保健領域における単元の評価規準**
- ① 知識・技能「～について理解したことを言ったり書いたりしている」
何を理解できるようにするのかということが、明確になるように設定する。
 - ② 思考・判断・表現「～している」
課題を見付ける、課題を解決する、表現に当たるものの例示を基に、実際の学習活動に合わせて作成する。
 - ③ 主体的に学習に取り組む態度「～しようとしている」
単元を通して見取るという考えの基、単元の後半に位置付ける。
- 【留意点やポイント】
内容のまとまりごとの評価規準と指導計画における生徒の活動を考慮し、児童の学びの姿として具体化した評価規準を作成する。
- (7) **保健領域の「知識・技能」の評価**
- ① 保健領域の技能・・・「心の健康」・「けがの防止」

個別の知識及び技能の習得状況について評価する。

習得した知識に基づいて行動として表出している姿、理解しているとともに技能を身に付けているかについて評価する。

- ② 小学校学習指導要領では
「心の健康」(第5学年)
心の発達及び不安や悩みへの対処について理解するとともに簡単な対処をすること。
「けがの防止」(第5学年)
けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当をすること。

2 小学校体育科における1人1台端末の活用について

- (1) **新学習指導要領とICT活用の関係** ※小学校学習指導要領解説体育編 P167
第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、各領域の特質に応じた学習活動を行うことができるように工夫すること。その際、情報機器の基本的な操作についても、内容に応じて取り扱うこと。
- (2) **体育科で育成を目指す資質・能力と1人1台のICT端末の活用**
- ① 運動領域
- ア 知識及び技能の習得の場面
技ごとの動画を繰り返し視聴したり、スローで再生したりする。
→個に応じた学びが可能になり、知識の理解が深まる・自己の動きを即座に確認でき、技能の効率的な習得につながる等
- イ 思考力、判断力、表現力等の育成の場面
各自の視点で撮影動画を確認することでチームの特徴に応じた作戦を考える。
→各自で考えたチームの特徴に応じた作戦をチーム内で話し合う。
→自分の考えを深めて対話をすることができるようになる・思考力、判断力、表現力等の育成が促進される等
- ウ 学びに向かう力、人間性等の涵養の場面
過去の記録や動きを確認する→変容を確認する→自ら進んで取り組むようになる等
- ② 保健領域
- ア 知識及び技能の習得の場面(例:心肺蘇生法)
応急手当等の自分の取組を動画で視聴→修正点を意識して再度実施
→取組動画を確認しながら試行錯誤することによって理解が深まり、技能向上が図られる。
- イ 思考力、判断力、表現力等の育成の場面(例:「けがの防止」校内の危険箇所)
各自の視点で危険箇所を撮影→各自が対策を立案→グループで交流
→自他が撮影したものを比較し、それぞれの対策を考えたりするなどして思考を深める。
- (3) **1人1台のICT端末の活用がもたらすもの**
- ① 児童 : 個別最適な学び 協働的な学び さらに意欲の高まり 学びの広がり
- ② 先生方: 業務の効率化(記録のデータ化) 授業改善
- (4) **課題及びICT活用により児童に期待できる姿**
- 【課題】①運動する子供とそうでない子供の二極化傾向 ②運動時間減少に伴う体力の低下
③健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分
- 【効果】①知識及び技能の習得・・・運動の行い方のさらなる理解
②思考力、判断力、表現力等の育成・・・自己や友達の課題発見、練習方法の工夫
③学びに向かう力、人間性等の涵養・・・教え合いの充実、自己の変容の確認
- 【期待できる児童の姿】
- ①苦手だった運動ができるようになり、運動が好きになる。
②運動することへの意欲が高まり、積極的に運動するようになる。
③自己の健康課題に主体的に取り組むようになる。

3 参考となる資料等について

- (1) 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編 (文部科学省 平成29年7月)
- (2) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校体育
(国立教育政策研究所教育課程研究センター 令和2年3月)